旅と文化
発行所
東京都千代田区
神田神保町2～30
財団法人全国
修学旅行研究協会
電(301)0531・2426
編集・発行人
永井照

修旅研究発表会開かる

計画と安全実施

問題点を深く追及

中・四国ブロック発表会　広島可部高で

広島県可部高校の発表会風景

三千五百年度の中、四国ブロック修学旅行研究発表会は、広島県教育委員会と全修協共催にて去る二月四日（土）午前九時半より、広島県可部高等学校において、県内外より約二〇〇名の参加者を得て盛大に開催された。

先づ開会の辞を可部高校教頭籾倉利明氏が述べたあと主催者側として全修協広島県支部長大西八郎氏が立つて、協会成立の歴史や今日まで活動の経過を述べて挨拶し、次いで広島県教育委員会可部教育事務所の原田所長より、同じく主催者として本日全県下より多数参加された事を感謝すると共に、教科課程としての遠足や修学旅行が再検討の時期に到達している今日この様な研究発表会を通じて時期輸送、見学地、日程、旅費、安全等の諸問題を充分討議されて、有意識に終了することを念願すると挨拶し、次いで来賓の広島県国泰寺高校金子校長が校長会を代表して、本県も将来修学旅行の専用列車を持つ事を希望しているので本日の研究会もこれを採り上げて一、概要　1、参加生徒二二六名ほしいと祝辞と共に挨拶した。次いで全修協理事愛媛県支部長伊藤収蔵氏より広島県の修学旅行が益々発展すること切望して祝辞を述べた後、研究発表に移った。

本校に於ける修学旅行の計画と実施　広島県安佐郡可部小学校教諭　古井成之

二、立案の観点
1、基本的態度　イ、安全教育　ロ教育的価値
2、立案と実施　イ学校の主体性　ロ児童父兄の希望考慮　ハ県郡の基準　ニ経費の積立　ホ会員参加　ヘ旅行のしおり作製その他
2、過去の旅行地（別府、京都三回、四国、岡山）
三、業者との数次の交渉
四、事前指導　1、安全教育　2、学習面　3生活指導　4、その他
六、事後指導　1、健康観察　2、話し合い　3、旅行記　4、小遣帳　5、報告会　6、PTA連絡その他

修学旅行実施上の三三の問題点　広島郡安佐郡可部中学校教諭　国木隆士

一、資料統計
二、輸送上の問題点　1、疲労調査　つかれた生徒は往路五五%　復路七四%　2、見学学習上の問題点　学習に役立つた回答（五二%）楽しかつた回答（七四%）楽しくなかつた回答（一三%）、観光的なリクレーションになつている点を反省
三、宿泊について児童の回答%

	良い	普通	悪い
食事	八	四五	四七
部屋	二一	六五	一三
寝具	七	四八	四五
従業員	三〇	三四	三六

四、その他の問題点

一本校の旅行概要について　森岡正

二、旅行の安全について
1、事前指導　生徒の健康安全をはかるため、旅行前に長期の健康観察と指導を行ない、各種の身体検査を実施した。
2、旅行中の指導　睡眠調査を行い、日程との関連に留意
3、食事調査　毎日の献立の栄養やカロリーを調査し対策を衛生に努めた。
4、輸送の管理　交通機関の調査、車中の座席確認、安全運転のため乗務員の健康や車体、速度等に注意した。
三、旅行後の指導
1、帰宅後の健康管理と疲労回復（大体三日後に全員回復）
2、反省整理（印象、旅館、経費）
四、結論
1、無理のない日程を組むこと
2、事前の健康状態の把握
3、輸送の管理を徹底する
4、自由行動の管理指導
以上で午前の研究発表を終り、昼食の後発表校撮影の修学旅行映画と東京タワー映画を上映し、午後の議長に安佐郡鈴張小学校元木校長を選び全体討議に移つた。瀬野中学の木村教諭より引率教師の旅費問題の見通しと山陽線電化と修学旅行専用電車設置についてその他補助費や小使い銭等に関する質問があり、大西支部長、山本調研部長より夫々答弁があつた。続いて養護教諭の割合、旅行中生徒の間食の問題、不良行為の問題、スピードや事故防止の問題等が次々と質問に出され参加者に役する点が多かつた。

次いで広島県教育委員会の山田指導主事より広範囲にわたつた研究発表や討議について非常に感銘深いものがあつたと講評があり、同じく全修協理事長山本種一氏より三人の実践記録としての発表が有意義なもので今後の修学旅行に役立つものが大きいと講評した。最後に可部高校内海校長が閉会の辞を述べ、午後三時盛会裡に終了した。

「ひので」号利用の都立高校修学旅行について

東京都立高校修学旅行実行委員会　谷信勝

去る一月三十一日、三菱銀行本店講堂における都立高校修旅実行委員会全体会議によつて、本年の「ひので号」修旅専用電車による修旅輸送が決定いたしました。今年は三月十七日から四月九日までと十一月一日から同十三日までの三千七日間に一〇〇校約二万五千名が関西四国紀州方面に旅行することになりました。座席定員制、東京―京都間八時間というスピード、車窓学習用のテーブルとスピーカーの設備、その上同乗者は同じ都立の高校という心易さ、その他全く「ひので号」を走らせて下さる方々の御好意に感謝せざるをえません。この利便、快適を十二分に活用し「ひので号」利用第二年目に入つた都立高校修旅がますます立派なものになつていくことを期待しています。しかし都立高校が修旅に「ひので号」を利用することに大同団結するまでには、少からず波乱と曲折がありました。「ひので号」の建造された昭和三十四年春から、私達修旅関係教諭をはじめ、都地研その他で各方面に、中学校利用の直前直後に高校が利用できるようお願いを始めました。高校長協会でもとりあげられ、七月十日に全体会議を開きましたが、すでに昭和三十五年の修旅は計画ずみの高校や「ひので号」による計画輸送に対する懸念が少からずあり、多くの意見や質問がありました。しかし九月十四日の第二回全体会議では、七割に達する高校が多少の無理があつても参加することに踏切つてくれることになり、実行委員会を持ち、輸送計画に着手しました。一日八〇〇名（ひので号は十二輌あるが検車のため一日平均八輌しか運転されないから）しかも定員超過絶対不可といつて、定員の八割を下回らぬよう、そして一校の団体を分割しないよう、その上各校にはそれぞれ学校行事の予定があつて大巾に出発日の変更できぬ等々という輸送調整の困難が多々ありました。しかし各校関係者の温い御協力と大きな御譲歩によつて十月八日に計画輸送案が完成し、都修旅委並びに国鉄当局の承認をえて昭和三十五年三月二十一日より乗車が可能になつたのでした。この結果昭和三十五年には九三校二万三千余名が「ひので号」による快適な第一回目の修旅ができました。つづいて今年も前述のように実施できるわけですが、来年昭和三十七年はベビーブームのため都の中学三年生が約二〇万（本年は十四万）となります。国鉄、三菱銀行その他の御好意で新車四輌建造されても焼石に水で、中学だけで四月十日より七月四日、九月五日より十一月二六日まで使用されるので高校の秋利用は不能に近いわけです。今、昭和三十七年乗車高校の輸送調整に着手していますがこの難問題をいかに突破するか頭を痛めています。近県の中高校を連合し「第二ひので号」でも運転して頂けたらとも思つています。最後に東京都の「ひので号」、京阪神の「きぼう号」、東海三県の「こまどり号」など快適な修旅専用電車が、日本全国の学校が利用できる日の早く来ることを願つて筆をおきます。（都立城南高校教諭）

沖縄見たまま（2）

全国修学旅行研究協会理事長　山本種一

沖縄本島は、北部及び中部が古生層の山地（最高五〇〇米）南部が隆起珊瑚礁のゆるやかな台地からなつている。私は那覇市から南部地域を一巡したが、ここは北部や中部とちがつて農業が栄え、中国から渡つてきた甘蔗や甘藷が栽培され、琉球表もここでつくられた。江戸時代には、それらの品物が琉球の島々をつたわつて、大阪や堺方面に運ばれた。蛇皮線もここから堺へ持ち込まれ、そこで改良されて蛇味線になつたと伝えられている。

琉球列島の中で、太平洋戦争の激戦地はこの沖縄本島の南部で文化の高い地域であつた。丘の上にあつた首里の王城や識名園や円覚寺などの建物や庭園が、戦争のためにあとかたもなく破壊されてしまつた。

三つの群島と一四〇の島々からなる琉球列島は、かつては日本の一つの県（沖縄県）であり一番の貧乏県であつた。細々と農業を営み、食料の自給もできず、サツマイモが常食となつていた。しかし戦争は沖縄島の経済を変えてしまつたようだ。町にはあふれるように自動車が走り、嘉手納の空軍基地には近代的な兵舎、倉庫、オフィス、石油タンクが建設された。嘉手納と那覇市の間には、中三三米、四台の自動車が楽に走ることのできるコンクリートの舗装道路もつくられた民間の自動車も戦前の一五倍以上の一〇〇〇台をこえている。基地建設やアメリカ軍人の落すドルをめあてに、世界各地から時計、タバコ、香水、衣料等の商品が流れこみ町にあふれている。しかし那覇市には工場はなく、基地建設やアメリカ軍人の落すドルに頼る全くの消費経済である。したがつて今回のアメリカのドル引締め政策が、将来どのように沖縄の経済を変化させるかということも、興味ある問題であろう。

私は自動車で那覇市の南方十㌔の糸満町に出た。人口一万四千の小さな漁業の町で、ここの漁夫は勇ましいので知られていた。岸にあげてあるクリ舟（長さ十二、三米、幅一米位）を見たが、これに前向きに坐り、かいを両手にもつて手前にかきながら海の航行の自由な時代には、西はインド洋から東はハワイあたりまで出かけていつた。糸満の漁法は、親舟が網を海に入れると、小舟の男達はみんな裸になつて海に飛びこみ、魚を網の方へ追つてゆくので面白い程魚を取ることができた。したがつて糸満人の去つた海には、小魚が一尾もいなくなるといわれた位であつた。

糸満人は男女を問わず骨格がよくて背も高く、鼻筋の通つている美男美女が多いように見受けられた。南方型の琉球人と違らようだから、漂着した異民族との混血ではないだろうか。漂着した八人の人間（エイトマン）の開拓した漁村で、エイトマンがイトマンになまつて糸満という言葉が生れたのではないか、そんな想像をしながら、町を見学した。糸満神社に参拝したが、拝殿も本殿もなかつた。この糸満には古い風俗が残つている。言葉の中にも服装にも、それらを見聞できた。昔は男が出漁すると、部落は殆んど女ばかりになるので、花嫁は男の服装をさせて保護したという。

糸満町から少し離れた所に大共同墓地（二〇〇坪位）があり、祖先崇拝の念のあつい沖縄人の特長として、墓の作製に非常に金をかけていた。

原いさむ

千葉縣修旅委発足

去る二月二十一日千葉市篠原旅館において千葉県下小、中、高校長会の代表十一㌢が集り、千葉県修学旅行委員会結成準備会を開催し規約審議や役員選衡等を終つた。この原案をもつて三月三日千葉市青雲閣において正式に千葉県修学旅行研究委員会の発会式を挙行した。

近畿地区 高校修旅委発足

委員長は大阪府立三国丘高校長

昨年六月以来、数回の会合をもつて準備を進めてきた近畿地区の高等学校修学旅行委員会は、去る一月三十日大阪市上六の浪速荘において各準備委員が集り、規約、役員を定めてここに発足した。

会は先づ村上全修協大阪事務局長の開会の挨拶に始り、近畿地区校長会の代表として大阪府立住吉高校長志賀平氏より詳細な経過報告の後議事に移つた。

議事は初めに規約審議を行い、原案修正の上これを承認し、役員選出にうつり、委員長（大阪府立三国丘高校長竹内鉄二氏）副委員長、委員、事務局長等を夫々選出の上決定した。決いで船舶利用による修学旅行計画について、関西汽船船客課長築瀬寿氏及び同係長立花欣一氏より具体的な話があつた。尚、修旅専用船の建造に関する利用社債については、山本全修協理事長より補足説明があり、種々質疑応答の後、近畿地区高等学校修学旅行委員会は無事発足した。当日決定の役員及び出席者は次の通りである。

委員長
大阪府立三国丘高校長　武内鉄二
副委員長
京都府立桂高校長　梶野哲三
神戸市立湊西高校長　山下尚志
委員
大阪市立工芸高校長　渡辺賢二
布施市立日新高校長　榊原三寿郎
和歌山県立和歌山工業高校長　薮田三郎
奈良県立田原本高校長　日夏嘉吉
滋賀県立大津高校長　馬場正男
事務局長
全修協大阪事務局長　村上正己
同係長　立花欣一
全修協理事長　山本種一
同　大阪府支部長　石川富蔵
同　尚、委員会の事務局は大阪府教育会館の全修協大阪支部内におかれて、今後の事務をとることになつた。

この外当日の出席者は次の諸氏である。
大阪府立住吉高校長　志賀平
滋賀県立大津商高校長　溝田義道
滋賀県教委指導主事　堀井治一郎
関西汽船船客課長　築瀬寿

近畿地区高等学校 修学旅行委員会規約

第一章　総則

第一条　この会は近畿地区高等学校修学旅行委員会と称する。

第二条　この会は事務所を大阪市天王寺区東高津南之町大阪府教育会館内におく

第二章　目的及び事業

第三条　この会は近畿地区にある高等学校が行う修学旅行に関して、その教育効果の向上をはかり、輸送宿泊等の合理化に努めることを目的とする。

第四条　この会は前条の目的を達成する為につぎの事業を行う。
1、教育的効果の向上の為の研究
2、陸海輸送機関と協力して、輸送の安全と合理化を計る。
3、目的地、旅館、車輌、般船バスについて調査研究
4、その他この会の目的達成の為の必要な事業

第三章　委員、参与

第五条　この会の委員は左記の校長会より一名宛選任されるものとする。
大阪府下公私立諸高等学校長会（以下公私立諸高等学校長会略）兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県

第六条　委員は修学旅行に関する事項についてその諸団体を代表し、その与えられた権限内において活動するものとする。

第七条　この会は次の役員をおく
委員長　一名
副委員長　若干名
事務局長　一名

第八条　委員長、副委員長は委員の中から互選によつて選任する。委員長はこの委員会を代表し会務を総理する。
副委員長は委員長を補佐し委員長支障ある場合にはその職務を代行する。
事務局長は委員長が委嘱しこの会の事務を掌理する。

第九条　役員の任期は一ケ年とする。但し重任を妨げない。

第十条　委員長は委員外の者から事務局長を委嘱することができる。

第十一条　この会に参与をおくことが出来る。参与は左の機関からの推薦によつて委員長これを委嘱する。
委員の所属する教育委員会、国鉄関西支社、関西汽船本社、全国修学旅行研究協会。

第十二条　参与は会議に列し必要な助言を与えるものとする。

第四章　会議

第十三条　委員長は原則として毎学期一回の外必要に応じて委員会を召集するものとする。

第五章　専門委員会

第十四条　この会の目的達成の為に特別の委員を委嘱しこの委員によつて専門委員会を構成することが出来る。

第十五条　専門委員会の設置運営については別に定める。

第六章　会計

第十六条　この会の運営に関する費用は分担金、寄附金をもつてこれにあてる。

第十七条　この会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日までとする。

第七章　規約の変更

第十八条　この規約は委員会の議決によつて変更することが出来る。

第八章　補則

第十九条　この会は昭和三十六年一月三十日に発足し発会時の委員長、副委員長の任期は昭和三十七年三月三十一日までとする

関西旅行の実施案について（4）

東京都立桜町高等学校教諭　小沼常治

四、現地指導の実際と二、三の問題点

（1）ひので号

〃ひので〃号の旅は七時間五十五の快適そのものである。それは座席の間のテーブルは、将棋の台、トランプの台に早変り、スピードメータ1、湯茶などの設備が整つている。八時四十分品川発なので東海道沿線の汽車の旅は車窓見学で十分事前指導で見るべきものがきゆられてあるので、楽しみながら眺ゆられる。トランプしながらも、将棋の手を休めて見学できる楽しい旅である、地図入り解説書または地図を持たせることである。

（2）現地における解説と指導

A、引率教師

「何をどう見るか」は出発前に指導ずみである から、簡潔に現地でバスから降りて見学にかかる前に、見学の要点を改めて示すことが効果的である。特に法隆寺のように境内も広く、見るべきものが多い時には、また東大寺の大仏は大きいだけでなく、大仏の前に立つても大きさは見当がつかない。そこで大仏の頭にある丸い玉の大きさは大人の頭の大きさがあるとか、天井の格子の一マスは四畳半あるとか東大寺に入つたら右左の隅から大仏を見ると調和がとれてよく見られるとか。

誰もが感嘆の声を放つ法隆寺の五重の塔は、日本で一番古い塔、一番調和のとれて美しい塔千数百年の長い間、地震にも風雨にもたえて、今日みられる荘重な、どつしりとした建築美、各層の調和、初層と五層との大きさのちがい、相輪の高さは全高の三分の一を占め数学的にすばらしい調和がとれて、見ただけで理屈ぬきによい塔である、と誰もがいう。解説書にないポイントを話してやること。

またバスの窓から奈良坂で京都から奈良に入るなら、東大寺の大きいこと五重の塔の高いことが説明したが説明しなくも大きい高いと誰もがわかるそんな点の説明は忘れぬようにしてほしい。又奈良坂の付近に日本中の勅願寺の瓦を焼いていの瓦屋がある、そうした説明をすると生徒は車窓から色々と珍らしい発見をする。

仏教諸宗派の本山の多い京都は、宗教上の大中心で、特に東本願寺の門前には仏具の専門店があつて、全国一の形態をなしている。東京の浅草稲荷町は仏壇、位牌、珠数、神棚などが店に並んでいるが、ここお東さんの前は珍数は珠数だけ、ころもはころもだけの専門店で、大、中、小どんな種類の珠数でもある専門店がバスの窓から見え説明できる。

また比叡コースで窓から窯工場が見える、水車を今も使つて金、銀、錫など箔がつくられている。それを見させることである。

こうした一寸した車窓から見えるもの、説明をしてやると生徒は眼をかがやかしている。

A、バスガイド

バス見学はガイドの誘導による見学になるのでガイドの説明が、効果をあげるあげぬの差を大にする。奈良交通のガイドは大体ガイドカードを用意し、要領よく伽藍配置、堂内の仏像の位置、法隆寺に入る時、宝蔵殿とかに入る前陳列の概略を説明して、限られた時間に要領よく見学できるよう説明してくれて、現地指導のよきアツシスタントとして効果がある。こうしたバスガイドであるよう、指導要点をガイドと出発前に打ち合すことを忘れぬよう。

C、案内人、これは奈良に多いことであるが、寺の案内人の解説は、史実と伝説とを混同するから、その点の識別のできるよう事前に指導しておき又帰つてからの整理を忘れぬこと。

好評の研修旅行

参加申込み 八〇〇名突破

夏休みを利用して行う教職員のための北海道、九州、その他の中距離の研修旅行は、協会の企画によつて既に五年前から実施し、既に一万五千人以上の方が参加され非常な好評を拍して来た。本年度も第五回の研修旅行を企画し、その案内書を各学校に配布したところ二月末現在で既に全国から八百名を越す申込みを受け、本部及び支部事務当局では多忙を極めている。この研修旅行は教職員の修学旅行とも言えるもので、快適な臨時列車で遠く北海道を一周して、実際に現地を視察する教育関係者のみの旅行で、現在我が国にはこのような企画は他に見られない。

未来の国、北海道

さいはての北海道は、これからの発展をまつ未来の国である。未開拓の広野が到る所に存在し入植者を待つている。バターやビールの産出、パルプや製鉄の工場、北洋の漁業等、北海道はこれからの国で、洋々たる未来の夢が待つている。明日の日本の姿を教育者が自分の眼で確かめることは有意義なことと思う。その他、南の九州、東北住渡、四国、信州等も是非訪ねてみたいところだ。

各縣中学校長のアンケート

修旅の問題点と希望

（一）貴縣における修学旅行の問題点

（二）貴方の修学旅行に対する希望

鳥取市立北中学校長
鳥取県中学校長会長　白岩庄市

（一）1、中学校の二泊三日の日数では、小学校と同じ京阪又は四国地方しか行けない。小学校とのダブリをなくするために、四泊五日位にして東京又は九州文面へ行かせたい。2、援護家庭、準援護家庭に対する補助金一六二〇円は少ない。又全該当生徒に支給されないので、全員参加の実現がむづかしい。3、附添教師の旅費のほとんどがPTA負担である。

徳島県阿南市立富岡中学校長
徳島県中学校長会長　吉谷庫介

（一）海を渡らなければならないという島の特殊性の点に困難がある。1、小学生が渡海に無理なため、隣県以外へは出られない。2、中学生は京阪又は北九州であるが共に往復二夜航を利用せねば出来ない。生徒の疲労と経費の負担が大きい。

（二）1、旅費の削減―旅館代低額、交通費の割引を多く、諸見学料の低減、2、旅館―団体用旅館の設備、サービスの改善。

島根県松江市立第四中学校長
島根県中学校長会長　栗間久

（一）1、小中高と計画の一貫性が不足している点がある。2、輸送に大きな問題がある。イ、普通列車では多人数の輸送は困難、ロ特別列車、ピストン運転の場合はダイヤの組方で到着が遅くなつたり出発が極端に早くなつたりするハ、特定地域以外は特別ピストンの輸送が出来ない。

（二）1、学校の教育計画の中に確実に位置する修学旅行であること。無計画や思いつきのものは有害であり、又盛沢山な日程は謹しむべきである。2、学校、教室を離れるので平常心を失いがちである点を計算に入れて、事前指導を徹底し事故を防ぐべきである。3、楽しく有益で一人一人が生涯のよき思い出となる修学旅行でありたい。

岐阜市立梅林中学校長
岐阜県中学校長会長　武藤雄俊

（一）1、修学旅行専用列車「こまどり号」ができても、僻地の学校はローカル線との時間帯がマツチしないため利用がむづかしい。2、引率教師の経費がPTA又は受益者負担のところが多いが、これを公費で支弁できるならば幸である。

（二）1、専用列車を小学校児童にも利用できるよう工夫したい。2、こまどり号を利用する生徒のため車内放送のテキストを作つてほしい。

修学旅行
…のご用命は！
多年の信用と
強力な織組
による……
誠実なサービス！
営業所　全国に120ヶ所
近畿日本ツーリスト
本社・東京都千代田区丸の内（国際観光会館）TEL 231－4131

出版界空前の ベストセラー
これからの地理教育の決定版
学校図書館へ是非お備えを
図説 日本文化地理大系
全18巻　全巻総アート函入豪華本
各1500円　隔月刊行
只今第3回絶賛発売中
東京 神田 小学館

研修旅行へ
夏休みの教育視察には絶好の機会!!
先生だけの専用列車で、気軽に行ける
視察コース（カツコ内は実施ブロツク）
北海道一周（全国）・九州一周（東海以東）・東北佐渡（東海・近畿・中四）
伊豆箱根富士五湖（中国・四国）・小豆島四国一周（東北・関東）
申込みは近日学校へ配布する印刷物を御参照下さい。
企画　財団法人 全国修学旅行研究協会
東京都千代田区神田神保町2の30　TEL(301) 0531・2426